



岡本 伊央 さん

幼いころからの憧れ

最終合格先 静岡県警警察官 A

関東学院大学 法学部 (在学中合格)

▶ 警察官・消防官を目指した理由・きっかけ

小学生のころから漠然と警察官に憧れを抱いていました。私は高校2年生の時に県が主催する東北被災地ボランティアに参加したことで、実際に被災した土地を自分の目で見たり、被災した方々と交流したりすることができました。その中で様々な作業をし、様々な想いに触れることで、今まで憧れでしかなかった警察官に私もなりたいと強く思い、目指すようになりました。

▶ TAC を選んだ理由

警察官になりたいという思いが強かったので、試験勉強のために教室で講義を行っている予備校に通おうと決めていました。TACでは教室での授業、Webフォローに加え、担任制度があり警察や消防に詳しい講師の方がついてくれる、という他の予備校にはない制度に惹かれました。また横浜駅から直結で行けるため、通いやすく感じたのもTACを選んだ理由のひとつです。

▶ 教養試験対策

数的処理を重点的に勉強しました。私は理系科目が苦手でしたが、試験の中で数的処理は多く出題されるため、数的処理ができるようになれば点数も稼ぐことができ、合格へ一歩進めると思いました。V問題集や講義ノートの例題をひたすらに理解できるまでやりました。自分では理解できない問題があれば質問に行ったりもしました。間が空くと以前はできていたのに、解き方が分からなくなってしまうということも多々あったので、数的処理だけは、毎日欠かさずにやりました。数的処理の中でも分野があるので、自分の得意な分野と不得意な分野を早くに見極めて、自分に性格あったやり方を模索しながら取り組めたことが良かったと思います。

社会科学などの覚えなくてはならないものは、講義後に基本的な部分をまとめていました。その時は問題を実際に解いていくことはせず、実際に問題集に取り組み始めたのは年明けくらいからですが、大学の定期試験との兼ね合いで1月はなかなか力を入れることができなかったのもう少し前から取り組み始めていればよかったと思います。

▶ 面接試験対策

面接試験はこの採用試験において最も重要な試験であると思います。試験の配点を見ればそれは歴然です。私は「なぜ警察官を目指すようになったのか」を自分自身で整理するために、浮かんだ考えや想いはすぐに携帯のメモ欄に記入したり、ノートを作ったりしていました。TACでは模擬面接を一度だけ受けましたが、なんとなく雰囲気を感じておくというような感覚で利用しました。受け答えをしている自分の姿を録画させてもらい、姿勢や仕草の気になる点を確認し、意識することができたので利用してよかったと思います。練習することが良くないとは全く思いませんが、たくさん練習して暗記してきたような言い方になるよりも、自分の言葉で自分のありのままを伝えることに意味があると感じていたため、面接の実践練習はあまりしていません。ただ、自分の伝えたいことはきちんと自分の言葉でまとめるようにはしていました。同じ内容であっても質問のされ方によって答え方が全く変わってくるので、質問の答えを作りそれを覚えるということにおいて、意味はないと感じます。ただ、想定質問を見て自分なりに答えを出すことは、自分の考えを整理するうえでとても役に立つのでやっていてよかったと思います。自分の中で一本絶対にブレない軸のようなものをもって面接に臨めば、予期しない質問をされても、矛盾のない統一感のある答えが出せると思います。

▶ これから受験する人へアドバイス

私は、大学3年の6月からTACに通い始め、それから勉強はずっと続けてきましたが、どうしても不安になることや勉強することが辛くなることもありました。そんなとき思い出すが、「辛いのは君たちじゃない」という言葉でした。モチベーションがなかなか上がらないとき、何のために勉強しているのか、その根本を思い出そうと、また頑張ろうと思えました。将来どんな警察官・消防官になりたいと思っているのか想像することや、その動画を見ることでモチベーションを落とさずに頑張れると思います。

TACは警察官・消防官になりたいと本気で頑張っている人の味方です。絶対に合格するのだという強い気持ちを持ってください。あとは自分自身を信じて、悔いの残らないように全力でやりきることができれば大丈夫です。



笹沼 拓未 さん

夢への通過点

最終合格先

東京消防庁消防官Ⅰ類

帝京平成大学 健康メディカル学部 (在学中合格)

▶ 消防官を目指したきっかけ・理由

私が消防官を目指した理由は、3つあります。1つ目に、自分の弟が持病を持っており医学を学びたかった。2つ目に、将来を考えていく中で、傷病者の方々のSOSにいち早く駆けつけて処置をする救急隊員になりたいと考えたからです。3つ目に、実際に救急隊員の方々とお話をしたことで、自分の夢は救急隊員になることだと確信を持てたので消防官を目指しました。

▶ TAC を選んだ理由

体験講義の際の講師の方の熱意、わかりやすさに一番惹かれました。数的処理の分野は公務員特有の範囲だったので、不安要素でした。ですが、その数的処理の講義がとてもわかりやすく、受講生をほんとに受かせたいという熱い気持ちがとても伝わり、この講師に教わればできるようになりそうと思えました。また、TACでは担任制度というものが、自分の不安などを相談できるという点でも選ばせていただきました。

▶ 教養試験対策

教養試験は範囲が膨大なので、自分が受ける自治体の傾向を把握して勉強することが重要だと思います。東京消防庁では、理数系の分野がかなりの問題数を占めています。そのことが分かっていたら勉強を進めるか進めないかでは、大きく差が出ると思います。

私自身は、東京消防庁に入庁したいと考えていたので、数的処理から勉強を始め夏休みの終わりごろには他の理系科目や文系科目にも手を付けていきました。数的処理は試験前日まで続けてやっていました。

また公務員試験は時間との戦いでもあります。数的処理では1問にかけていい時間は5分だと思います。それでも、本番では緊張もあり5分以内に解き終えるのはかなり厳しいと思います。そのために、日ごろから問題を解くときに、ストップウォッチでタイムを計ってやるのが良いと思います。私は、高校でも理系を先行しており、負けず嫌いだったので、周りが5分以内なら自分は4分30秒以内に解くということをやっていました。人と同じ努力では受からないと思ってください。

▶ 面接試験対策

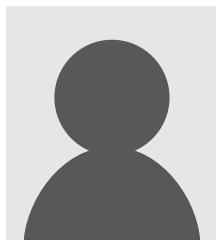
消防の試験で面接はかなり重要視されていると思います。教養試験の点数が高かった人でも面接試験で落ちている人もいました。また面接では自分の思いや考えを、端的に伝える必要があります。

私が面接試験対策として行ったのは、過去に聞かれた質問内容をノートにQ & Aのような形で書いていました。これを書くことによって、似たような質問にも対応できるようになりました。過去に聞かれた質問はTACの先生方に聞いてみればもらえると思います。

また、私が良かったと思うのは、生徒同士で面接練習をすることです。お互いビデオを撮ってやると、自分のダメな部分も見えてきますし、他の人のいい部分、悪い部分も見れるので自分の力になっていくと思います。

▶ これから受験する人へアドバイス

公務員試験は範囲が膨大であり、最初から結果が出る人は少ないと思います。私自身、東京消防庁の試験の1か月前までは模試などでほとんど結果を出せていない状況でした。しかし、そこであきらめず勉強に励んだ結果、東京消防庁の試験本番では教養試験で過去最高点を出すことができました。アドバイスとしては、自分が思うように結果が出なくても諦めず励むことです。消防を目指す人はいずれ人の命を助けることを職務とするのですから、こんなところで諦めるようでは人の命は救えないと思いながらやっていくことがモチベーションの維持にもつながっていくと思います。それでも、1人で悩みすぎることは勉強に支障をきたす場合もあるので、そのときは担任講師を頼ることを、とてもおすすめします。最後に、公務員試験は長丁場でストレスもかなり感じるものだと思います。なので適度な息抜きはしっかりとすることも重要なことです。頑張ってください。



飯塚 貴英 さん

大きな目標に向かって

最終合格先 警視庁警察官 I 類

大東文化大学 環境創造学部 (在学中合格)

▶ 警察官を目指した理由

最初は漠然と公務員という職業から始まり、自分がこれまで身に付けてきたものを生かせる場は何かと考えた時、警察官の警備部に目がとまった事を切っ掛けとして目指す事になりました。警察官について調べている中で自分のやりたい事が明確になっていき、警察官になりたい思いが大きくなっていきました。

▶ TAC を選んだ理由

警察官の試験を受験するにあたって、勉強が苦手な自分が独学で勉強する事は出来ないと思っていました。そして予備校探しの中で、TACは授業の分かりやすさや様々なフォロー、通学環境が一番適していた事が決めてとなりました。

▶ 教養試験対策

数的処理では、数的推理が非常に苦手な為、一部分のみを勉強しました。その代わりに判断推理と空間把握を徹底的に勉強し、得意科目にする事で数的推理の分をカバーしていました。問題を見ただけで解けるほど、V問を周回して解くことで、模試などの問題にも対応出来るようになりました。

その他の文章理解では、やり過ぎても逆に分からなくなってしまったので月に2回位の勉強で丁度良かったと思います。社会科学や人文科学などの暗記科目は、V問1週目に解説をノートにまとめていきました。時間は掛かりましたが、2週目以降理解しながら覚える事ができ、本番でも点数がとれました。暗記系は理解しながら覚えていないとテストで迷う事になるので、数的処理と同じ位勉強時間を設けて欲しいです。

春休みはほぼ毎日TACに通い6～9時間勉強していました。また、週1で勉強をしない自由な日を入れるなどの息抜きもしていたので、充実した期間だったと思います。

▶ 論文試験対策

論文は苦手で、最初はどのように書けばいいか分からず、毎回講義の後に講師に質問しに行っていました。論文を提出し添削されていくことで、徐々に書けるようになり、良い評価を貰える事が出来ました。論文は書いたら積極的に講師に見せに行き、何がダメなのか、どうした方が良い論文になるのかを教えて貰う事が大切だと思います。また私は、知り合いの良い論文を見せて貰い、言い回しなどを参考にし、自分の物に取り入れたりしていました。

▶ 面接試験対策

面接練習を始めたのは、一次試験の合格が決まってからでした。そこから直ぐに担当講師の方に模擬面接を頼み、様々なアドバイスをいただきました。TACでは面接練習を行うための教室が設けられているため、友人との練習で例年と似た質問や意表を突いた質問に対しての対策をとっていました。

面接では、無駄な事を考える必要はありません。例えば、「何でも奢ってあげるから何食べたい?」「焼き肉!」といった感じで、質問に対して素直に自分が思った事を言えば良いと私も教わりました。暗記は本番で役に立ちません。相手と会話するように心がけましょう。

▶ これから受験する人へアドバイス

大学に通っている人は、単位を3年の間に全て取り終えておくことをおすすめします。試験本番が近づくと大学に行っている暇などないと感じます。私は取り終えていたため、1月から試験本番までじっくり試験勉強に打ち込むことが出来た上に、最終合格から先は楽して大学生活が満喫できています。

勉強をしているとやる気やモチベーションが下がる時があります。息抜きを何処で取り入れるかを考えながら試験本番まで意識を高めて取り組んでください。やる気が失せて手が付かない時は、勉強せずに自由に遊ぶのも良いと思います。また勉強と平行して、自分が志望している所でどんな事がやりたいかを調べ、考えていった方が面接の時に役立ちます。

私は警視庁と神奈川県警、大阪府警の3つを受験しました。1番手応えあった神奈川県警は不合格で、不安が多かった警視庁が合格だったため、皆さんも最後まで何が分かるか分からないので、最後まで諦めずにいましょう。ずっと勉強してきて、最終合格を掴めた時は全てが報われるほどの喜びがあります、自分の夢を叶えるために頑張ってください。



田中 祐臣 さん

ヒーローへ、一歩前進

最終合格先 大阪府警察官 A

武蔵大学 経済学部 (在学中合格)

▶ 警察官を目指したきっかけ・理由

幼い頃に観た仮面ライダーに憧れを持ったことがきっかけです。強くて優しい、悪から弱者を守るヒーローの背中をずっと追いかけていました。現実の世界に仮面ライダーはいませんが、同じような存在である職業は何かと考えたときに一発で頭の中に浮かんだ職業が「警察官」でしたので、志すことに決めました。

▶ TAC を選んだ理由

当初は独学で試験に臨もうと考えていましたが、一度気分転換でTACの説明会と体験授業を受講した結果、無駄なことをせず警察試験に集中できると確信したことが決め手でした。特に現役で受験される方は初めての就職試験ですので、何から始めれば良いのか不安になる方が多いと思います。しかし、TACの説明会でそんな不安は吹き飛び、次の準備へとスムーズに移行することができました。

▶ 教養試験対策

数的処理が特に多く出題されると聞いていたので、本試験の一週間前までは毎日数的処理は欠かさず取り組みました。私の場合、基本を大事にしようと常に思っていたのでV問題集より講義ノートの内容を完璧に解けるように意識をしていました。わからなくなったらすぐにWebの解説を聞いてノートにまとめていました。ですので、私のノートには講義ノートや講義の黒板と同じものが書かれていることになります。時間の無駄だという人もいましたが、自分で書いたからこそどこに何が書いてあるかわかるので、試験直前での最大の味方になったと私は思っています。

勉強する科目が偏る不安を打開するために、その他の暗記系は演習や模試の正答率上位8位の内容に絞ろうと割り切りました。そうすることで、毎日行う数的処理とその他の科目のバランスが取れると思います。

▶ 論文対策試験

文章を書くことは得意でしたので自信はありましたが、添削された評価を見るとだいたいC+でした。公務員試験の論文は中立性も意識しなければなりませんので、我が強い文章は好まれません。実際一度Eをとってしまったこともありましたが。

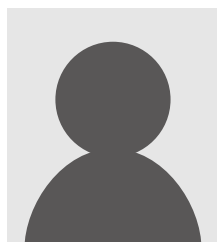
自分の作る文章の悪い点をノートにまとめておき、各話題に現れる悪い癖を把握し、同じような展開を作らないように意識して練習していました。

各自治体によっては、採用サイトに過去の論文試験のテーマが掲載されているところもあります。TACの論文テキストと同時並行して対策を練ることをお勧めします。

▶ これから受験する人へアドバイス

私は大学三年の10月よりTACで学習を始めました。当初は、早くから通い始めている人との学習容量の差が心配で不安でした。ですがここで敢えて言います。本試験より半年前に始めても間に合います。早くから始めるに越したことはありませんが、惰性で進めるのではなく、いかに短時間で集中できるかがポイントです。私はそこから警察官になることのみを頭に入れて過ごしてきました。

将来、自分はこんな警察官になりたいなど思い描きながら試験勉強することによってモチベーションを保つことができましたし、何よりも困ったときに相談に乗ってくださったTACの担任講師の存在も大きかったです。困った時はなるべく相談しましょう。TACを信じて、一生懸命に頑張ってください。



増田 夏子 さん

再チャレンジ

最終合格先 皇宮護衛官大卒程度

東洋大学 ライフデザイン学部 (既卒合格)

▶ 皇宮護衛官を目指したきっかけ

もともとは警察官志望でしたが、母から「皇宮護衛官の方があなたに合っていると思うよ」と言われたのがきっかけです。実際に皇居で皇宮護衛官の姿を見たり説明会でお話を伺ったりしたところ、日本伝統そのものであり国民のためにご公務をされている皇族方をお護りする仕事に魅了され、皇宮護衛官を志望するようになりました。残念ながら一度は採用試験に落ちてしまい夢を諦めましたが、幸か不幸かその後何度も皇宮護衛官を見る機会がありました。それにより「やっぱり皇宮護衛官になりたい!」という気持ちが日に日に増していったので、皇宮護衛官として働くために再度チャレンジすることを決意しました。

▶ TAC を選んだ理由

1度目の失敗の要因は情報不足にあると考えていました。皇宮護衛官は公安職の中でもかなりマイナーで、大手の予備校でも皇宮護衛官志望の生徒を指導したことのない講師がかなり多いようです。なので、皇宮護衛官合格者を何人も指導したことのある講師がいて、かつ論文と面接指導が手厚い予備校を探すことにしました。様々な予備校の中でそれに当てはまるのがTACだったので、TACで勉強することを決めました。

▶ 教養試験対策

私は数的処理がかなり苦手で、似たような問題は解けるけれど少し手を捻らただけで問題が解けなくなる典型的なタイプでした。なので、講義で教えられた攻略ポイントを徹底的に叩き込むために講義ノートとWebフォローは何回も見直しました。それでも分からないものは積極的に講師に質問をし、どの単元も不完全燃焼で終わらないように努めました。「何が分かっていないのか分からない」といった状態で質問に行っても、丁寧に教えてもらえるのでかなり助かりました。V問題集は問題にもよりますが、苦手な問題は5回以上解いたと思います。

その他人文科学などの知識系は試験前日まで頭に叩き込みました。習ったことを忘れないように講義ノートやWebフォローを何度も見返したり、図にまとめたりしました。それでもなかなか覚えられないものは紙にメモをして家中の壁に貼り付け、いつでも目に入るようにしていました。V問題集を解く際には、単に答えを探すだけでなく他の選択肢の間違っている箇所を訂正する作業も行うようにしました。それにより一つの問題から多くのことをアウトプットすることが出来たので、ぜひ実行してみてください。

▶ 論文対策

過去問のお題を1週間に1題を仕上げることを目標に書いていました。論文を書くのが苦手だったので時には2週間以上かかることもありましたが、講師に文句なしと言われるまで何度も書き直しました。何度も書いているうちに論文のコツをつかめるようになり、本番でも慌てず書くことが出来ました。その他にお勧めなのは、予備校の友人と論文を添削しあうことです。自分とは違う考えやその表現の仕方を学ぶことが出来ますし、どう改善すれば良くなるのかアドバイスを考えることにより、自分の論文にかなり活かすことができます。また、論文対策はかなり時間がかかるので早めに取り組むことをお勧めします。

▶ 面接対策

面接で大切なのは、いかに自分の言葉で希望職への考えや熱意を伝えられるかだと思います。普段使わないような言葉で伝えたとしても、単に暗記してきたように感じられて悪印象を持たれることがあるからです。友人と面接練習で面接官役をすると、それが痛いほど分かりました。なので、私は取って面接ノートは作らず、何度も面接練習を重ねることによって自分の考えをまとめていきました。

また、実際に働く場所や雰囲気を知るために皇居で行われる行事にはできる限り参加するようにしました。面接では、警察も消防も同様ですが、どの程度仕事を理解しているのか聞かれます。説明会に参加するだけでなく、少しでも希望職への理解を深めるために能動的に行動した方がいいと思います。

▶ これから受験する人へアドバイス

本番では何が起るかわかりません。得意科目がいつもより解けなくて実力が出せなかった…なんて話はザラにあります。私もその1人でしたが、苦手科目を含めた知識系もしっかり取り組んでいたおかげで、得意科目で取れなかった分をカバーすることが出来ました。採用試験合格に向けての道のりは容易ではありませんが、TAC講師のアドバイス通りに実行できれば大丈夫だと思います。「絶対合格して希望の職場で働くんだ」という誰にも負けない熱意を胸に、悔いの残らない受験生活を送ってください。



三木 暁 さん

頑張れば夢は叶う

最終合格先 東京消防庁消防官 I 類

日本体育大学 体育学部 (在学中合格)

▶ 消防官を目指したきっかけ

私が中学3年生の時、高校を決めるついでに親に就職先について話したとき軽い感じで「消防官かっこいいからなってみたら?」と言われました。そこで私も少し興味を持ち調べてみたところ、東日本大震災での活躍や全国消防技術大会などの動画を見て一目惚れをし、消防官になり多くの人を助けることが夢になりました。その後大学に進み消防官になった先輩たちと話とても誇らしげに語ってくれました。その時私の夢が目標に変わりました。

▶ TAC を選んだ理由

身近に消防官を目指している先輩がいたため話を聞いてみたところここをおすすめされました。TACは数多くの消防官を輩出しています。そのノウハウそれを学べば効率よく勉強でき、合格への一番近い道になると考えたため入校を決断しました

▶ 教養試験対策

数的処理が重要と言われていたので私は、5月に入校し、8月の夏休みまでは毎日数的だけ3時間と少ない時間ですが続けました。そうしていくうちに、理解が深まり、また勉強をする習慣を身につけました。問題を解く際には、時間を測りながら解き5分はこれぐらいの感覚というのを覚えました。私はとりあえずV問題集をとき続けました。分からないところはどこが理解できていないのか把握しその授業のWebを利用し解けるよう努力していました。そうしていくうちに問題を丸覚えではなく、解き方の理解ができ、違う問題文が出てきたとき対処や応用ができるようになりました。最終的には、講義ノートと4週、V問題集を4週、苦手なところは5週程行いました。試験は数的処理だけではないので、暗記系は夏休み始まって多く時間が取れるときにやり始めました。やり方は、講義を受け次の日にその受けた分のV問題集をと解き、一通り解いたら間違ったところをまた解くというふうに行いました。暗記系はやった回数です。そう思ったのでひとつでも多く解くようにしていました。また印象深いものは覚えやすいので、講義を受けたあとはすぐ解くよう心がけていました。また文章理解は毎日3問以上とノルマを決めて勉強していました。また、私は東京消防庁を目指していたので自然科学を12月から始めました。そうすればちょうど定着した時に試験に望めると考えたからです。講義は2回見ました。問題集は大体4周くらいしました。試験を受けた際に数的処理の問題はあまり正解していませんでしたが。自然科学の数学が全問正解とトータル8割近く取れたのでカバーできました。

▶ 論文試験対策

論文は正直教養よりも重要だと私は考えていました。ですから私は多く書くことをしていました。TACの先生方も100枚以上は書くべきというふうにおっしゃっていたからというのがあります。やり方としては学校のキャリアセンターの方に問題を出してもらい解くというやり方です。二人の方に見てもらい、片方に出しているときはもう片方から出された問題を解くようにしていました。またこれはいいのか分かりませんが、3日後までには添削して欲しいなどと言って提出していました。今思うと大変迷惑だったなと思います。このように数多く解いていると自分の書き方がパターン化されます。だから論文は自信を持って挑めました。そして試験当日、論文問題が配られて拝見したところ5日前に解いた問題とかなり似ていました。そのため書き終えるのに30分しかかかりませんでした。あとの時間は見直しを行い完璧に仕上げて提出できました。論文も数多く書いたもの勝ちだと思いますですから数多く書くように自分で環境作りを行ってください。

▶ これから受講する人へアドバイス

勉強というのはかなりキツイです。これだけ解いたのにまだ正解できないという問題も出てきます。途中で逃げたくもなります。ですがそこで一旦立ち止まって周りを見てください。そんな同じ境遇のなか周りの友達やライバルは頑張っています。あなたは決してその人達に負けていません。焦らずに地道に前に進んでください。モチベーションが下がったなら試験対策ゼミに参加してみてください。モチベーションが上がる話もしてくれます。数多くの公務員をTACは輩出しています。だからこそ、ちょうど欲しい時に欲しい言葉をくれます。決して安くはない受講料を払っているのだからTACを自分のものだと思って、いい意味でわがままに利用してください。



小野 祥太郎 さん

自分と向き合い続けた時間

最終合格先

警視庁警察官 I 類・神奈川県警察官 A

駒澤大学 法学部 (在学中合格)

▶ 警察官を目指した理由

大学3年生の時、本格的に自分の将来のことを考え始めました。その時、自分の一生をかけて働くのであれば、人の役に立ちたい、誰かの為に働きたいと思いました。その時、思い浮かんだのが警察官でした。また私の周りに、既に警察官として働いていた同級生、先輩がいました。その方々から色々話を聞く機会が有り、とても輝いて見えました。私にとっては身近に、警察官の知り合いがいたことが、大きなきっかけでした。

▶ TAC を選んだ理由

警察官を目指すに当たって、初めは独学でやろうと思っていました。しかし、どこから手をつけたらいいかわからず、早々に予備校を探すことにしました。幾つか予備校を周りましたが、TACの施設、環境が私にとって最適でした。また、体験講義に行った時の分かりやすさ、そしてなによりも、熱意がすごく、ここに入れば充実した時間を過ごすことが出来ると考え、TACに決めました。

▶ 教養試験対策

入校した当初は数的処理に一番力を入れ、ほとんどの時間を費やしていました。講義を受け、復習をし、ひたすら問題集を解いていました。そこで解けなかった問題や、偶然解けた問題はノートにまとめ、自分なりの問題集を作っていました。ここで意識していたのは、入校した時の時は、一問一問とにかく時間を掛けるようにしていました。時間があるときにしっかりと基礎を固め、直前期には実践を重ねていました。

教養試験は、満点を狙う試験ではなく、ボーダーを超えればよい試験です。自分の行きたい場所の傾向を知り、自分の中で点数を最大化できる科目を選択して勉強していくことが大切だと思います。

▶ 論文試験対策

私は論文に答えはないと思っています。もちろん、形式的な部分はしっかり学び、覚える必要があります。しかし、内容に関しては採点者によって評価が大きく変わってくると考えるからです。

そこで私がしていた対策は、TACでもらえる論文集を読み、自分のものにできそうな所を集め、自分の言葉に変換して活用していました。何度も何度も意味もなく書いて提出するのではなく、自分なりに考え、書くときは本番を想定して書き、提出していました。返ってくる評価は良くても悪くても、一切気にする必用はありません。ただ、そこで直すべきポイントがあれば、しっかり直して

いました。

本番では、おそらく練習してきていないお題が出ます。そこで対応する為に、自分の中でどんなお題が出て、ある一定の形を決めておけば、焦ることなく、スムーズに書くことができると思います。

▶ 面接試験対策

面接は、とにかく自分の中で多くのパターンを想定し、答えを用意しておくことが重要です。言うことを暗記するのではなく、ある程度で内容を決めたほうがいいと思います。面接は会話なので、その場での対応となります。そんな時は暗記している言葉は一切役に立ちません。

私は、ノートにQ & Aをひたすら書き込み、多くの人と面接練習をしていました。とにかく、暗記ではなく、会話だという意識を持つことが大切だと思います。

▶ これから受験する人へアドバイス

私は、大学3年生の10月からTACに通い始めました。入った当初はやる気に満ち溢れていたのですが、周りの友達が遊んでいて流されそうになり、また、勉強についていけずに何度も心が折れました。そして、強い気持ちを持って目指したはずの警察官を諦め、一般企業への就職を考えた時期もありました。しかし、周りの支えや、講師の熱い言葉に何度も救われ、最後まで頑張ることができました。

公務員を目指し、勉強する毎日はとても不安だと思います。そして長い道のりです。私が受験期に意識していたことは、考えても答えがでないことは考えない。例えば、この勉強方法であっているのか、合格はできるのかなどです。また、夜は無駄なことを考えないため、寝る時に、音声DLを流しながら寝ていました。寝る直前の記憶は残りやすいため、とても有効でした。

皆さんには、意味のある勉強をして欲しいです。公務員試験が終わったあと、たまたま合格したのではなく、こういう過程を経たから合格できたのだと。その経験が、今後に必ず生きてくると、私は信じています。



鈴木 悠汰 さん

下剋上

最終合格先

東京消防庁消防官Ⅰ類・警視庁警察官Ⅰ類・
神奈川県警察官A

関東学院大学 法学部 (在学中合格)

▶ 消防官を目指した理由

私が消防官を目指したきっかけは、私が進路で悩んでいた際、大学の講師の方に実科査閲の映像を見させてもらい「カッコいい」「自分もこんな風になりたい」と思ったからです。同世代なのに、自分より一回りも二回りも大きく立派に感じ、憧れを抱きました。それから消防官の事を調べれば調べるほど消防官という職業の素晴らしさの虜になりました。それと同時に消防官になった際、自分のやりたいことが明確に見えてきました。

▶ TAC を選んだ理由

消防官を目指すに当たり、私は今までサッカーしかやってこなかったため独学では絶対に無理だと考えていました。その為、予備校を探していました。

その中でTACを選んだ理由として大きく2つあります。1つ目は、大学とTACが提携しておりTACの資料や情報が身近にあったからです。2つ目は、体験講義に行った際、非常に熱心で丁寧、かつユニークで生徒に寄り添って教えてくれる講師の方がいました。ここでなら満足のいくサービスを受けられると思ったからです。

▶ 教養試験対策

教養試験は範囲が非常に広大な為、要領よくやる事が合格を勝ち取る鍵だと私は思います。私は特に数的処理と社会科学と自然科学に力を入れていました。自分の性質上、理数科目が得意だった事もあり得点源を明確に設定しました。また、社会科学は配分が大きいので一点も落とせないと考え、年明け過ぎ頃までこの3つの科目のみ、ひたすらV問を解いていました。分からないものがあればWeb講義や講義ノートで復習して、またV問の繰り返しでした。

本試験を経験してみて感じたことは、もちろん捨て科目を作らないに超したことはないですが、苦手科目を中途半端に勉強するより、得意科目やウエイトが大きい科目に時間を注ぐべきだと思います。ちなみに私は英文と世界史が本当に苦手だったので一切勉強しませんでした。結果的に本試験では、自分の得点源で点数を稼げたので満足のいく結果を残す事が出来ました。

▶ 論文試験対策

私は最初本当に論文が苦手で全く書けませんでした。D評価なんて当たり前で、添削後は赤ペンで原稿用紙が真っ赤でした。ですが毎日一本書き続けました。色々な人に添削してもらい、その都度アドバイスを参考に、ひたすら数こなすことを意識しました。TACの論文添削サービスに加え大学の就職支援センターでも積極的に添削してもらいました。その結果、自分の型が定まり引き出しが増えました。文章力は一朝一夕で身に付くものではありません。あくまで持論ですが、内容や評価に重きを置きがちですが、とにかく沢山書くことが大切だと考えます。早い段階から焦らず我慢強くコツコツやり続けることが結果に結びつくと思います。また、直前期では東京消防庁が発表する「消防に関する世論調査」のファイルをプリントアウトし、調査結果の一つ一つに対して問題点と解決策を書いていました。補足ですが、今年度1回目の論文試験で出た救急の資料は、この世論調査から全く同じものが出ました。

▶ これから受験する人へアドバイス

消防・警察採用試験の最終合格をもらうまで本当に長い戦いです。私は入校当初、ライバルでもあるTAC生と仲良くするなんて考えてもいませんでしたし、しようとも思いませんでした。ですが、今思うとTAC生の友人がいなければ絶対にこの長い戦いを乗り切れなかったと思います。本当に私は周りの人に支えられてたからこそここまで来れたので、人それぞれだとは思いますが一緒に頑張る仲間と仲良くしていった方が良く私は思います。また、息抜きは本当に大切だと思います。集中できない時に勉強をしても全く頭に入ってきません。ですから、勉強する時はする、息抜きする時はとことんする、といった切り替えをしっかりとる事も重要だと思います。

確かに試験勉強は辛いです。ですが一番辛い人は助けを待っている方々です。そう考えると、たかが勉強で辛いなんて言っていられないと思えるはずですよ。そう言ったモチベーションで挑む事で少しは勉強に対する概念が変わるのではないのでしょうか。最後に言える事は、後悔しないように最後まで諦めず頑張ってください。健闘を祈ります。



福田 浩輔 さん

人生のスタートラインに立つために

最終合格先

諏訪広域消防本部・富士市消防職大卒・秦野市消防職

東海大学 体育学部 (既卒合格)

▶ 警察官・消防官を目指す理由・きっかけ

私が消防官を目指すきっかけとなった出来事は、平成25年の台風26号で伊豆大島が甚大な被害を受けた際の救助活動を見たことです。過酷な環境下での救助活動と避難者が船から陸に移るときに手を差し出す消防官の姿が目には焼き付きました。また身近な先輩に消防官の方がいて具体的な話を聞くことができたことで、明確な目標として考えるようになりました。大学卒業時に消防官として採用されず民間企業で働いたことで、消防官として人命救助に携わりたいと学生の頃よりも強く思うようになりました。

▶ TAC を選んだ理由

私がTACの受講を始めたのは社会人1年目の11月です。学生の頃は独学で勉強していましたが、社会人になってからは勉強時間が短く効率よく勉強する必要があると思いました。また私が大学卒業時に不採用だった試験の多くは面接でした。そのため、1つ目に通信講座であること、2つ目に面接試験対策が充実していることを重視してTACを選びました。私は1年目の受講で合格することができず、2年間受講しました。1年目で合格できなかったのはTACに原因があるのではなく、私自身に問題はあったとわかっていました。

▶ 教養試験対策

TACの講義は約3時間1コマですが、多くの講義は1.5倍速で再生して、理解が進んでいるものや話すペースが遅い先生の講義は2倍速で再生していました。また音声としてスマートフォンにダウンロードして、電車等の移動時には聞くようにしていました。特に暗記科目の社会科学や人文科学で効果があったと感じました。勉強時間については、毎日2.3時間は確保できるように努めました。勉強をし始めたころは仕事で疲れて大変でしたが、毎日のルーティーンになってしまえば楽になりました。

▶ 論文試験対策

論文添削は何度もしてもらって自分のパターンが見つかると思います。私は受験予定の自治体の過去問を一通り書き、添削してもらってB判定以上を目指しました。自身のことについて書く内容は自己分析を行うことで自然と良くなりました。自治体や消防一般に関する内容については、消防士の業務を理解することや受験自治体の特徴を把握することで書きやすくなりました。消防年報や消防白書は必見です。また東京消防庁特別対策の論文対策の講義で扱った内容が実際に出題されたので、受講してよかったと思います。

▶ 面接試験対策

私は不採用の原因が面接にあるとわかっていても関わらずあまり模擬面接をしていませんでした。5回程度行いましたが、それ以降は担任講師と面談をしました。私は本番の面接に10回以上落ちました。原因はその場しのぎのような回答をしてしまっていたことだと思います。合格できたのは、自分が思ったことを素直に答えられたからだと思います。私の場合は担任講師との面談によって改善することができました。模擬面接では身だしなみや姿勢、表情などが改善できました。また、歳の離れた上司と話すような感覚で面接をするということを意識していました。普段の業務の中でも面接のように端的に物事を伝えるように意識して結論を話してから理由を言うということもしていました。(その話し方のせいで結論を言った時点でキレられたこともあります。面接ではそのようなことはない…はず)

▶ 社会人の勉強法

とにかく毎日少しでもいいからやるのが大事だと思います。空いている時間は全て勉強時間にしていました。自分が仕事をしている時間に学生は勉強できるのです。どれだけやっても満足せず貪欲に勉強時間を確保することを意識しましょう。また現在の仕事で消防官になったときにどのように活かせるかを考えながら働いていると、今の業務のモチベーションにもなりますし、面接でも活かせると思います。実際に本番の面接で「現在の仕事で消防官として活かせることは何か」と何度か聞かれました。私は普段の生活から「消防士の自分だったらどう考えるか、どう行動するか」ということを常に考えていました。

▶ これから受験する人へアドバイス

諦めないで自分を信じるのが私自身を支えてくれました。精神論にも思いますが、消防官になるという強い気持ちがあるからこそ行動でき、工夫ができ、どうすれば合格できるかを本気で考えることができると思います。私は正直、社会人1年目に受験して合格できなかったときは諦めようと思いました。でも結果的には諦めずに受験したから合格できました。合格できた今年は、「合格は人生のスタートラインだ」と強く思っていました。(面接のとき実際にこの言葉を言いました) 消防人生が始まってやっと自分の人生を歩み始めることができるのではないのでしょうか。一人では考えつかなかったことが、誰かのちょっとした一言で考えられるようになったり、思いついたりすることがあります。そういう鶴の一声をもたらしてくれる存在がTAC講師陣にはいました。



関 泰希 さん

なりたい自分になるために

最終合格先 つくば市消防本部・茨城県警察官 A

亜細亜大学 経済学部 (在学中合格)

▶ 消防官を目指した理由

私が消防官を目指した理由は、3つあります。1つ目は、隣家の火事や東日本大震災、鬼怒川の堤防の決壊などの大きな災害や火災を体験したことです。特に鬼怒川の堤防が決壊した時は、決壊した場所が家から近く、避難指示がいつきてもおかしくない状態でした。そんな中、テレビで救助する消防士を見て、私も人の命を救うことのできる仕事に就きたいと強く思いました。

2つ目は、中学・高校と6年続けた部活動(陸上)を活かすことができる仕事に就きたかったからです。6年間の部活動では体力だけではなく、精神面も日々の練習で鍛え上げてきました。消防官はこれらを十分に活かすことのできる仕事だと思いました。

3つ目は、私が考える中で一番、社会的意義のある仕事だと思うからです。消防官の職務行為は、利益に関係なく人の命を救うことが出来ます。私は、これほど社会的意義のある仕事はないのではないかと考えています。以上の理由により、私は消防官を目指しました。

▶ TAC を選んだ理由

私がTACを選んだ理由は、友達に勧められたからです。私が大学で所属している経済学部では様々な資格を取得したい人たちが多く、予備校に通う人もいました。そのため、簡単に予備校の情報を集めることが出来ました。TACは、多くの校舎があり学校帰りでも通いやすく、時間が合わない時はいつでもWebで講義を見ることが出来ることを知り、TACを選びました。実際にTACに通ってみると受講者へのサポートも手厚く、講師の熱意もあり、試験に向けて頑張ることが出来ました。

▶ 教養試験対策

教養試験の勉強では、復習を常に意識してやっていました。まず、V問題集を使うことを前提に1日の目安の問題数を30問なら30問と決め問題を解き、その日の夜に昼間やった問題を軽く解き直します。次の日の朝に、また、問題を解き直して、これで一周です。私は、1回やったら3回できるこのやり方で勉強していました。勉強時間は、6時間～8時間くらいで無理しない程度にやっていました。また、睡眠時間も重要なのでしっかり取れるように考えた方がいいと思います。私は、寝る時間の3時間前には、炭水化物などは取らないようにしていました。

さらに、勉強で集中するために私は、なるべく水分補給は水にしたり、炭水化物は取り過ぎないようにしていました。

▶ 論文試験対策

論文対策では、構成メモを中心に力を入れました。毎回の教養試験の勉強の前に2種類の小論文の構成メモを、時間を図り作成していました。構成メモは慣れてくると10分～15分程度で作成できるようになるので時間もかからないのでお勧めです。私がやっていた構成メモは、まず、①問題をあげる。②実際に起きている事実をあげる。③具体的な内容を書いていく。このようにしていました。それを問題が2種類ならこのパターンをもう1セット作り書いていました。フルの小論文は2日か3日に1回くらい書いていました。構成メモが早く書けるようになると時間に余裕をもって論文を書けるようになるのでぜひやってみてください。

▶ これから受験する人へアドバイス

大学3年生はまだ講義も多く忙しいと思いますが、なるべく4年生時に講義を残さないように履修を組んだ方がいいと思います。教養の勉強は、計画をしっかり組んでからやらないとせっかくやったことを忘れてしまうので、復習をする計画をしっかりたててやった方がいいと思います。私も最初はあまり復習を計画に入れずに勉強していました。そのため、もう一度解くまでに間が空いてしまい、ほとんど、ど忘れしてしまうことの繰り返しでした。試験範囲は、とても広いのでV問題集のすべての教科の問題が何問あるのかを把握して何日間で一周するなど計画を立てるといいと思います。自分が目指しているものを常に想像してすべてをモチベーションに変えて頑張ってください。



今福 彩希 さん

自分と向き合い、成長できた日々

最終合格先

神奈川県警察官 A・大阪府警察官 A

日本大学 危機管理学部 (在学中合格)

▶ 警察官・消防官を目指した理由・きっかけ

私の父親は元警察官で、私が高校生の頃に他界しました。その葬儀の際には同じ署で働いていた警察官の方々だけでなく、他の署にいる同僚や警察大学校で親しくなった他県警の方も来て下さり、警察組織の仲間を思いやる強さに感銘を受け警察という職に興味を持ちました。その後、生前父と親しくしてくださっていた方から警察の仕事について話を聞く機会があり、それによって警察という職に憧れを抱いたため受験を決意しました。

▶ TAC を選んだ理由

私が通っている日本大学で公務員試験の合格者の方々のお話を聞く機会があり、その方がTACに通っていたと仰っていたのがきっかけでした。その日のうちに資料請求し親にも相談したところ、体験講義に行くことを勧められたためその申し込みも行いました。TACの体験講義を実際に受けに行ってみると、講師の方の説明の分かりやすさや講義に対する熱意、そしてなにより質問に喜んで答えてくれる姿に惹かれ入校を決意しました。

▶ 教養試験対策

警察でも消防でも数的処理は避けては通れない科目だと思います。もし苦手を感じている方がいるならV問題集実践編の難易度Aのみを取り組む、講義ノートの例題のみを完璧にするなどして決して逃げないでください。得意に感じている方も1日5問を継続的に解くことで実力は保たれます。他の苦手科目に集中しすぎない様に注意してください。また、私の場合は英語と現代文の読解も1日2問ずつ解いていました。警視庁は特に数的処理の問題数が多く、次に英語と現代文が多いです。漢字も含め日ごろからやっておくことを強くお勧めします。

▶ 面接試験対策

私は面接試験対策で具体的に何をしたらいいのか分からず、犯罪白書や警察白書、受験する地域の犯罪件数や特徴をネットで調べるだけでなく、警察署や本部に行って現職の方に直接話を聞いたり、京橋にあるポリスミュージアムに行ってみたりしました。また警察官としてあってはならない人見知りを克服するため、ボランティア活動の参加だけでなく1日1回知らない人に声を掛けるのを目標に、電車で妊婦さんや高齢者の方に席を譲ったり目の不自由な方に道の案内をしたりなど積極的に取り組みました。

このように様々なことをやってきましたが、その中でも私が一番にお勧めするのが事故・事件現場に実際に行ってみることです。

面接でのネタになるというのも理由の一つですが、実際に行ってみるとテレビの画面越しでは伝わらないものを感じることができるうえ、被害者の気持ちをいろいろ考えさせられるので自分が目指す姿をもう一度確認できる機会にもなると思います。

▶ これから受験する人へアドバイス

私は昨年この合格体験記を担当講師から配られた時のことをよく覚えていて、どのようにしたら受かるのか何が正しいのかを知りたくて帰りの電車の中で読みました。それで分かったことは、勉強法や面接の正解は1つではなく、ただひたすら今の自分を信じて一生懸命に自分の正解を模索することが大切であるということです。良いと思った勉強法や物事に対する自分の考えなどをケータイにメモし、それを実践したりノートにまとめたりと、全てが手探りの日々でしたがその積み重ねが合格に繋がったのではないかと思います。

私は現在、地元である神奈川県警察と大阪府警察の2つから最終合格をいただきどちらに行くかとても悩んでいます。悩みというのはなるべくない方が良いものではありますが、自分の努力が実った結果生まれた悩みであるが故、とてもありがたく贅沢な悩みであると感じています。また受験生の頃は地元で働くことに憧れを感じていましたが、いざ大阪府警察から最終合格をいただくと地元と同じくらい惹かれるものを感じました。現在皆さんが滑り止めや練習のために受験を考えている自治体も、最終合格をいただいた瞬間にその印象は変わると思います。ぜひいろんな自治体を受験してみてください。

これから先だんだんと試験本番が近づいてくる中で、おそらく皆さんはどうしてもできない不安に襲われると思います。そんな時はぜひ友達や恋人、家族、そしてTACの講師を頼ってください。もちろんそれによって完全に不安がなくなることはないと思います。しかし、ここで挙げた人たちは少なからず皆さんの夢を応援してくれています。諦めることなく努力を続ければそれが実る可能性も比例して上がります。私と同じ夢を持つ皆さんに贅沢な悩みができるよう応援しています、頑張ってください。



高野 晃輔 さん

最後まで自分を信じること

最終合格先

警視庁警察官Ⅰ類・埼玉県警察官Ⅰ類

東洋大学 経済学部 (在学中合格)

▶ 警察官を目指したきっかけ

私が警察官を志すようになったのは、幼い頃にドラマで見た警察官の格好が良かったからでした。しかし、大学生になり警察官の説明会などに参加するになると、警察官の仕事の幅の広さを知れて、さまざまな角度から地域住民の安心安全をまもれることに魅力を感じたことや刑事として事件の捜査・解決を通して、被害にあわれた方の無念を晴らしたいと思ったからです。

▶ TAC を選んだ理由

以前から警察官の試験向け参考書を買っていたので範囲が広い試験だということは知っていました。独学でやる自信はありませんでしたが、予備校に通うことは大学受験の失敗から少し躊躇していました。しかし、大学で見つけたTACの説明会と体験講義に参加したところ自分に向いていると感じ、自分が警察官になるビジョンが見えたことやどうしても警察官になりたい気持ちが強かったことが入校することを後押ししました。

▶ 教養試験対策

数的処理は教養試験の中で最も割合の多い分野なので、毎日V問題集を解いていました。授業中は、少しでも多くの説き方を覚えて帰るように努め、次の日にはWEB講義を見直して復習をしました。(授業の翌日にアルバイトなど予定があった日は一日あけてやっていました。)V問題集は、7~8周すれば十分力がつくと思います。V問題集に少し飽きてきたときは、Vテキストで違う問題に挑戦することでさらに力がつきました(これはどの科目にも当てはまります)。人文科学、社会科学、自然科学はそれぞれがいくつかの科目に分かれていて且つ、覚えることが多いのでとても大変でした。講義中に少しでも覚えることも大切ですが、ネット上で講義の音声や音声にダウンロードできるので、私は通学、帰宅の電車の中でテキストを見ながら何度も聞くことで、暗記力を高めていました。これはとても効果がありました。文章理解は担当の講師が講義の進捗と一緒にまず1周し、試験の2~3ヶ月前から毎日少しずつ解きなさいと仰っていたので、そのとおりに解きました。文章理解の問題は主に現代文と英文に分かれていますが、難易度は大学入試のそれと比べるととても簡単だと思います。

▶ 論文試験対策

私にとって一番難題といえたのが論文でした。毎週講義の最後に一枚論中を書くのですが、私はテーマに沿った自分の強みや経験談などがまとまらず書くのがいつも遅く、評価もほとんどC~Dでした。そのため講義に行くのが億劫でしたし、しっかり書けない自分に絶望していました。ただ評価が悪くても講師からのアドバイスを聞き、時間をかけて行うことで次第に自分のスタイルが見えてくるようになりました。最初は自分が書きやすいテーマから順番にやっていくがよいと思います。何を書けばわからなくなったときは、自分のちょっとした経験(アルバイト、友人関係)から使えそうなことを少しずつ書いていくことが大事です。

▶ 苦手科目の克服

教養試験の中で数的処理は、最後まで苦労しました。毎日V問題を解き、Vテキも活用していましたが試験直前期の過去問では全く解けていませんでした。しかし焦って勉強範囲を絞ることはせず、試験ぎりぎりまで講義ノートやWEB講義を見返し、基本に返ることを心がけました。また試験中に数的処理に十分な回す時間を増やせば、力を発揮できると思っていたので、人文科学や文章理解といった得意科目の解くスピード上げる努力をしました。

▶ これから受験する人へアドバイス

一番大切なことは、自分に負けないことだと思います。私は、昔から自分に甘かったので、大学受験に失敗するなど後悔しかしてきませんでした。ただ今回警察官の試験に合格することができたのは、その失敗から学び自分に負けなかった結果だと思います。辛いとき時程と自分に甘くなりがちになるかもしれませんが、最後までしっかりやれば必ずうまくいきます。また一緒に戦う友人を作ることだと思います。同じ目標を持った友人を持つことは今後、公開模試の結果が芳しくないときや本試験が近づいてきた時、皆さんの心の支えになってくれます。お互い似た悩みや心配を抱えたもの同士で思いを共有し合うことで心の荷も軽くなります。もし1人で勉強している人がいれば声を掛けてあげてください。